



近 世 (1643～1867)

元号年	西暦	釧路市史関係事項(関係史料)	関係する日本及び北海道の事項
寛永20	1643	・オランダ船カストリクム号(司令官フリース)が厚岸湾に停泊する。 この来航記でのクスリ・アイヌが厚岸で交易等の叙述及び『松前旧事記』での事件に関する記事中に「クスリ」とあり、文献上「クスリ」という地名の初見とされる。	
正保元	1644	・幕府の編纂した『正保絵図』に「クスリ」の地名が記載される。	
寛文 9	1669	・静内の酋長シャクシャインらが蜂起する。松前藩は乱を鎮圧し、十勝・日高地方を支配下に置く。クスリでも、松前藩前田九郎左衛門の船が事件に巻き込まれ、死傷者が出る。また、オンベツでも死者15名との記録がある。事件のしばらく後に、釧路・厚岸・根室のアイヌらが松前藩に交易の再開を申し出る。 (『津軽一統志』『寛文拾年狄蜂起集書』)	
 <p>【東蝦夷地クスリ場所之図】</p>			
元禄10	1697	・出羽国人佐藤信景らが、阿寒岳の麓オセナムとその南クノリで畑と水田を設け、3年間の収穫に成功したとの伝聞がある。 (『北海道殖民状況報文』、『土性辯』)	
正徳 3	1713	・寺島良安筆の『和漢三才図絵』に「薬ヶ嶽」との記載がされる。	
享保 3	1718	・南部佐井及び江戸霊岸島の船がクスリへ漂流し破船する。	
寛保 3	1743	・釧路場所・白糠場所間で場所荷物扱買事件が起こり、上乘役らが処罰される。(『福山秘府』)	
安永 3	1774	・飛驒屋久兵衛が絵鞆・厚岸・霧多布・国後場所請負人となる。	

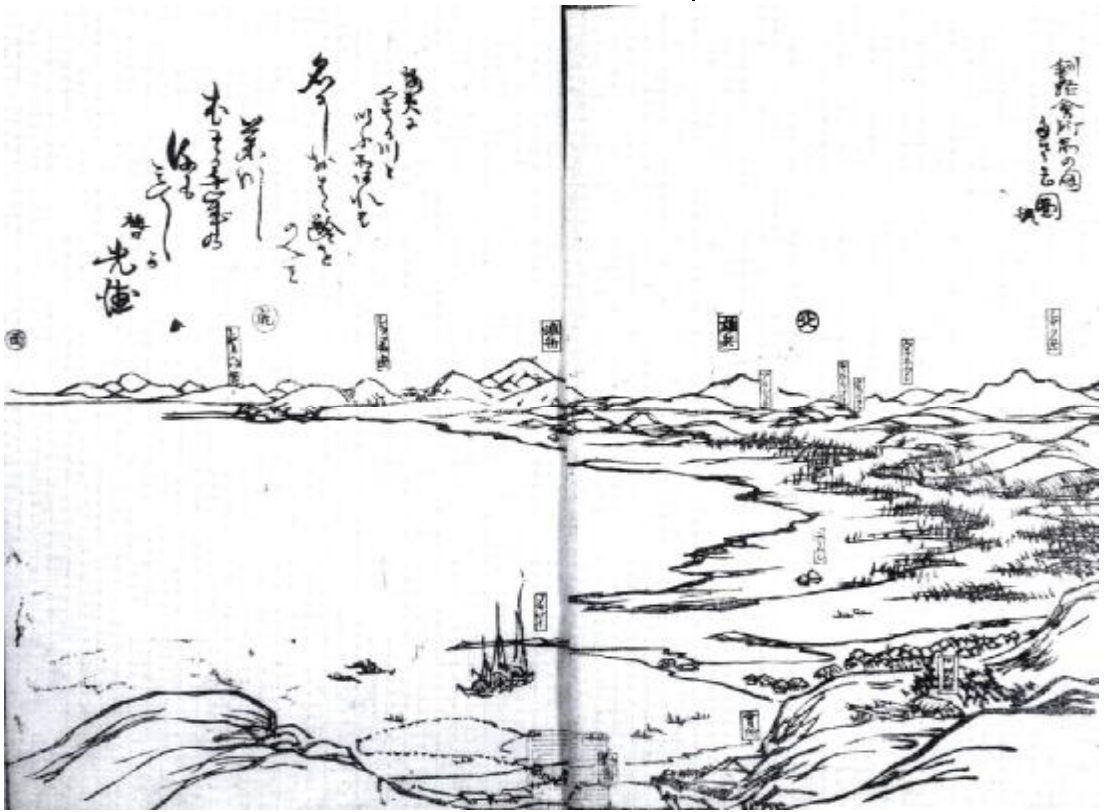
安永 4	1775	・飛騨屋久兵衛が宗谷場所も請負人となる。この頃併せて釧路場所も請負ったとみられる。	
天明 2	1782	・松前広長筆『松前志』に釧路の石炭のことが記される。	・クナシリ・ソウヤのアイヌ800～900人と 権太アイヌ180人餓死
天明 6	1786	・釧路場所での昆布採取が始まる。この頃、釧路に運上屋1戸、 白糠は2戸、厚岸は1戸。 (『北海道開拓使事業報告』、『蝦夷拾遺』)	
寛政元	1789	・松前藩がクナシリ・メナシの乱の責任を問うて飛騨屋の場所請 負を罷免し、村山伝兵衛に請負わせる。	・クナシリ・メナシのアイヌが蜂起
寛政 3	1791	・この年、釧路の昆布生産高は8,000駄、干鮭1,300束といわれ、 厚岸からも昆布を出す。(『東蝦夷道中記』) ・釧路場所の請負人は大黒屋茂右衛門運上金65両、白糠は 大和屋惣次郎運上金75両という。	・寛政4年、ロシア使節ラックスマンが、大 黒屋光太夫ら漂流民3名を伴い根室に 入港して通商要求
寛政10	1798	・襟裳岬のルベシベツ―ビタタヌンケ間の山道が開削され、 釧路までの馬利用が可能になる。	
寛政11	1799	・11月、幕府は東蝦夷地各場所の請負人を廃して直轄とし、運 上屋を「会所」に改め、併せて通行屋を設ける。(『休明光記』) ・釧路運上屋も会所に改められる。 ・釧路―仙鳳趾間の陸路が開削される。(『東行漫筆』) ・尺別旅宿所(番屋)が設置される。	・1月、幕府、東蝦夷地浦河より知床に至 る地域及び諸島の仮直轄を決定 ・箱館に沖ノ口役所設置
寛政12	1800	・伊能忠敬がクスリ場所の測量を行う。尺別・クスリなどの旅宿所 に泊まってニシベツまで行き、帰路に就く。	・八王子千人同心、白糠と勇払に屯田
			
<p>【寛政11年ころの尺別】 『蝦夷奇勝図巻』 寛政11年:谷元且画</p>			
		・幕吏原胤教の部下が雌阿寒岳の硫黄を試掘する。(『北海道 殖民状況報文』)	
享和 2	1802	・白糠場所は釧路場所に編入され、旧会所は釧路場所の番屋 となる。(『東行漫筆』) ・箱館奉行がアブタ・アカン山以外の蝦夷地材伐出しを禁ずる。	・2月、蝦夷地奉行が設置され、5月に箱館 奉行と改称

<p>文化 2 1805</p>	<p>・米屋孫兵衛(初代孫右衛門)が初めて釧路場所請負人となる。</p> <div data-bbox="343 235 1197 851" data-label="Diagram"> </div> <p>【佐野家系図・相統図:「孫右衛門」を名乗るのは三代目勝三郎以降】</p>	<p>・巖島神社が米屋孫兵衛により真砂町に造営される。</p>
<p>文化 4 1807</p>		<p>・幕府、松前氏を転封し、蝦夷全島を直轄</p>
<p>文化 5 1808</p>	<p>・仙鳳趾一厚岸間の陸路が開削され、釧路一厚岸間が全通する。 ・この年、釧路場所の出産高3,964石余という。</p>	<p>・間宮林蔵・松田伝十郎ら樺太を探検</p>
<p>文化 6 1809</p>	<p>・釧路場所の蝦夷家数309軒、1,384人を数え、出稼ぎのため住居を離れている者が目立つという。『東行漫筆』</p> <div data-bbox="319 1176 1332 1758" data-label="Image"> </div> <p>【文化7年頃のクスリ会所(『東蝦夷地より国後へ陸地道中繪圖』)】</p>	<p>・樺太を北蝦夷地と改称</p>
<p>文化 8 1811</p>	<p>・露国ディアナ号艦長ゴローニン、蜜入国の咎により国後島で捕えられ、陸路福山へ護送される。(釧路を通過)</p>	
<p>文化 9 1812</p>	<p>・東蝦夷地各場所の直轄を廃し、場所請負制に復することとして入札が行なわれ、釧路場所は請負人に川内屋長十郎、近江屋九十郎、運上金1,355両2分と決まる。</p>	

文化10 1813

・場所請負制が復活するが、東蝦夷地の運上屋は、従来どおり「会所」と呼称される。

・高田屋嘉兵衛の仲介によりゴローニンら箱館で釈放



【釧路会所の図(『東蝦夷日誌』)]～釧路港の原風景が描かれている。

文政 4 1821

・この年、釧路場所の荷物積出高**3,964**石余という。(『久寿里場所引渡一件書物』)

・幕府、蝦夷地を松前藩に還付し、松前奉行を廃止

文政 5 1822

・米屋儀兵衛(二代目孫右衛門)が運上金**450**両で釧路場所請負人となる。

天保元 1830

・御城米船・虎寿丸が、バシクルに漂着し破船する。

天保 3 1832

・三代目米屋孫右衛門(勝三郎)が場所請負人を継承する。

天保14 1843

・釧路勤番の配置は、頭役士**1**人・騎従士**1**人・足軽**4**人・在住**18**人、鉄砲**200**目**1**挺・**100**目**1**挺・**10**匁**3**挺・**5**匁**5**挺、手槍**10**筋。
・奥蝦夷で巨大地震が発生し、死者**46**人を出す。釧路では、**5**メートルの大津波が**2**回記録される。

弘化 2 1845

・松浦武四郎初めて東蝦夷地を旅し知床へ至り、釧路に立寄る。

嘉永 6 1853

・釧路場所のアイヌ人口は**1,298**人という。(『東蝦夷日誌』)




安政元 1854

・日米和親条約締結。箱館奉行開庁

安政 2 1855

・釧路場所は仙台藩の警備地となり、厚岸「調役在勤」詰合が統轄する。
・四代目米屋孫右衛門(喜与作)が場所請負人を継承する。

・幕府、松前周辺以外の蝦夷地大部分を直轄し、東北諸藩が蝦夷地警備
・外国船に薪水食料供給のため箱館開港

安政 3	1856	<ul style="list-style-type: none"> ・ 釧路の庄屋晴一郎ことメンカクシが、ニシベツ川筋の漁獵権につき、厚岸詰合へ根室アイヌを訴える。 ・ 箱館奉行がオソツナイで石炭を採掘する。(年内に中止) ・ 松浦武四郎が再度釧路に立寄る。この時の旅行記として『武四郎廻浦日記』が著されている。  <p style="text-align: center;">【松浦武四郎】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幕府、函館奉行の白糠炭坑開発を承認(翌年、採炭開始)  <p style="text-align: center;">【白糠石炭窟(『東徼私筆』)】</p>
安政 4	1857	<ul style="list-style-type: none"> ・ 釧路場所のアイヌ人口は、247戸1,324人という。(玉虫左太夫『入北記』) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 箱館奉行、蝦夷地に稼方として渡来する者の入役金を免除
安政 5	1858	<ul style="list-style-type: none"> ・ 松浦武四郎が最後の蝦夷地調査で、3度目のクスリ場所来訪。阿寒方面を調査し、尺別にも滞在する。(『久摺日誌』)  <p style="text-align: center;">【『久摺日誌』外の松浦武四郎著作】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 箱館奉行、永住願う者の越年役を免除 ・ 日露修好通商条約締結
安政 6	1859		<ul style="list-style-type: none"> ・ 箱館開港、運上所設置
万延元	1860	<ul style="list-style-type: none"> ・ 釧路場所は変わらず直領地で仙台藩警備とされる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東北6藩、蝦夷地を分領支配
文久 3	1863	<ul style="list-style-type: none"> ・ 米屋が大謀網を開発し、漁獲量を増大させたという。 ・ このころ釧路場所の生産高は、昆布5,563石、ノ粕1,413石。 	